

# アルカテル・ルーセントが中堅・中小向け「OpenTouch」最先端のUCをオールインワンで

日本アルカテル・ルーセントから中堅・中小向けのUC製品が登場した。1台のサーバーで音声／ビデオ／テキスト／資料共有からマルチデバイス対応まで、すべてのUC機能を実現できる。

文◎太田智晴(本誌)

国内PBX市場が海外ベンダーに攻略される日は結局のところ来なかった。しかし、その発展系といえるユニファイドコミュニケーション(UC)市場では違う結末が待っているかもしれない。シスコやマイクロソフトといった海外ベンダーの方が、統合度などにおいて一歩も二歩も現時点では先行しているからだ。また1つ大手海外ベンダーから新たなUCソリューションが登場した。日本アルカテル・ルーセントが11月から販売を開始した「OpenTouch Business Edition」(以下、OpenTouch)である。

「これまで我々は日本市場で非常に苦戦してきたが、OpenTouchは競合他社よりもずっと優れたソリュー

ーションだと確信している」。アルカテル・ルーセント本社バイスプレジデントのザビエル・マーティン氏はこう語るが、実際、UCの最先端トレンドをしっかり押さえた、なかなか興味深い中堅・中小企業向け製品となっているのだ。

## “会話”を変える3つの技術

企業ITの世界では今、「ITコンシューマライゼーション」が大きな潮流となっている。iPhoneやソーシャルメディアなど、進化の著しいコンシューマ向けテクノロジーをいかにうまく取り入れていくかが、企業の競争力を左右し始めているわけだが、コンシューマと比べて遅れが目立つ分野



アルカテル・ルーセント コミュニケーションソリューションズ プロダクトマーケティング担当 バイスプレジデント ザビエル・マーティン氏

の1つに、旧来の電話やメールを中心とした企業コミュニケーションがある。そこでアルカテル・ルーセントが掲げているのが「Change the Conversation」というコンセプトだ。マーティン氏によると、OpenTouchは次の3つの中核技術により、「ビジネスにおける“会話”に変革をもたらす」という。

まずはマルチパーティ、つまり会議機能の標準搭載である。例えば顧客との1対1での会話中に必要な知識を持った別のメンバーを新しく参加させるなど、セッションを切断したりツールを切り替えることなく、メンバーの追加／離脱を行うことなどが可能だ(図表)。

次はマルチメディアである。自社やサードパーティの別製品との連携に頼るのではなく、音声、ビデオ、テキストチャット、資料共有などの機能をオールインワンで備えている。テキス

図表 マルチパーティ機能のイメージ

